

# 奥能登調査の経過と残された課題

橘川 俊忠

## 一 調査の経過

一九九七年度の調査は、例年とほぼ同時期の八月二十一日から二十八日の日程で実施した。また、九八年二月十九日から二十三日には、輪島市文化課保管住吉神社文書の撮影のみを目的とした補充調査を行った。今年度の調査は、十五年間にわたる時国家を中心とした奥能登調査の締めくくりの調査として位置づけ、調査団一同その覚悟で調査に臨んだ。調査の経過は以下の通りである。

八月の調査は、網野善彦（二十四～二十八日）、西和夫（二十五～二十七日）、橘川俊忠、田上繁、田島佳也（二十

二～二十八日）、津田良樹（三十一～二十七日）、泉雅博、白水智、関口博巨、窪田涼子、及川清秀の奥能登調査研究会のメンバーと織田洋行、須永敬、亦野あゆみ（二十一～二十七日）、高野宏康、山本康博の歴史民俗資料学研究所大学院生、山田由加里、尾本師子（山田は神奈川大学建築学研究科大学院生、尾本は学習院大学大学院生。両名とも二十五～二十七日）、それにボランティアとして網野真知子（二十四～二十八日）、加藤友子（跡見学園女子大学研究生）が加わり、総勢二十名で実施した。さらに、この調査期間中に実施した輪島市文化会館での住吉神社文書の撮影作業には、輪島市のお世話で沖崎俊嗣・坂下陽の両君

と学芸員課程実習生の兼田和佳さんにお手伝いいただいた。さて、この調査で行った作業は以下の通りである。

まず、文書班・書籍班は、時国健太郎家・岩倉寺・輪島市文化会館での作業を中心として調査を行った。

時国健太郎家では、前年度借用していた近世文書（虫損・破損が甚だしく補修のため借用した第四次文書数点及び第四次補遺分。これは大学において補修・整理を済ましていた）を、現地で撮影して返却した。これで、近世文書については整理・撮影をすべて完了し、借用していた文書もすべて返却したことになる。近代文書については、前回までの調査で、第四次近代文書のうち明治、大正、昭和戦前・戦中期の書簡類を除いた主な文書の整理・目録とり・マイクロ撮影は終了していたので、九七年度調査では、書簡類、戦後期の文書、襖下張り文書、破損・不開文書、断簡などの整理に着手することにした。しかし、時間的・技術的制約により、粗目録を作成して文書群のおおよその内容を把握するにとどめざるをえなかった。なお、粗目録をとった文書のうち一部を選択してマイクロ撮影した。また、財団法人時代の日本常民文化研究所の時国家調査関係書類（書簡など）もすべてマイクロ撮影して返却した。

つぎに、岩倉寺では、前年度に引き続き、文書及び文字

資料を簞笥・木箱などの保管容器から取り出し、取り出した順に整理番号を付与し、中性紙製文書整理封筒に一点詰めするという作業を行った。また、封筒詰め作業と並行してマイクロ撮影も行った。

輪島市文化会館での住吉神社文書の撮影は、二十五日から二十七日の三日間だけ実施した。マイクロカメラ二台を稼働させ、近代文書の撮影を行い、マイクロフィルム十二巻分の撮影を終了した。

その他、八月の調査では、建築班が、時国家古屋敷に関する調査を実施した。古屋敷の遺跡において、計算によって推定した古屋敷の棟の高さまで風船を揚げ、それがどの地点から見えるかを確認し、古屋敷の建物が海岸から十分に見えること、したがって海上からも見えるであろうことを確認した。これは、古屋敷時代の時国家の性格を考えるために重要な意味を持つ発見である。

この八月の調査は、先に述べたように、時国家を中心とした奥能登調査としては締めくくりの調査として実施し、時国健太郎家の古文書の現地調査は一応の区切りをつけることができた（後に述べるように、撮影ミスのため一部再撮影せざるをえなかったが）こともあって、時国健太郎氏・綾子氏をはじめ現地の関係者に調査終了の挨拶を行い、

長年にわたる協力に深甚の謝意を表した。時国信弘家には、網野善彦氏の調査報告に述べられてきたような事情で、調査不十分のまま終了させざるをえなかったが、これまでにおかけしたご迷惑をお詫びすると同時に、調査を一応終了するという挨拶を行った。

なお、例年のように今回の調査でも巡見を実施した。二十五日に和嶋俊二氏のご案内で、田鶴浜方面に出かけ、長氏墓所のある東嶺寺や三引遺跡などを見学した。そして、同日夜、和嶋氏の長年にわたるご研究の成果をまとめられた『奥能登の研究——歴史・民俗・宗教』（平凡社）の出版をお祝いする会を開いた。席上、調査員一同、調査開始から今日に至るまでの和嶋氏のご教示と献身的なご協力に對して心からの感謝の意をお伝えした。

ついで、九八年二月十九日から二十三日の日程で輪島市文化会館保管住吉神社文書の調査を実施した。調査参加者は、泉、橘川、関口、田上、織田寿文（歴史民俗資料学研究所科大学院生）の五名、他に今回も輪島市のお世話により中山順子さん及び新木夕利子・坂下育野・中村利照・藤野寛子の四君のご協力をいただいた。この調査ではカメラ五台を稼働させ、近代文書の撮影を行った。

また、八月の調査で撮影したマイクロフィルムのうち一

巻分に撮影ミスがあることが判明したので、二月の住吉神社文書調査の機会を利用して時国健太郎家にお願ひし、現地において再撮影した。その際、時国綾子氏のご希望もあり、また時国健太郎家文書を研究しようとする他の研究者の利用の便宜を図るために、同家母屋二階及び離れ二階の文書収納状況を示す絵図を作成した。

## 二 残された課題

以上、九七年度の現地調査の経過について述べてきたが、以下この調査で残された課題について若干検討しておく。

とはいっても、一九八四年に文書返却のため両時国家を訪問してから十四年、本格的な文書調査を開始した八五年から十三年という膨大な調査の全体を総括し、そのうえで残された課題を整理することは、現在の段階ではほとんど不可能である。そういう調査の全過程にわたる検討は後日を期すことにして、ここでは九七年度の調査の問題に限ってまとめておきたい。

最初に述べたように九七年度の調査は、時国家の古文書を中心とした現地調査としては締めくくりの調査とすると

いう調査団の合意にしたがって実施した。もちろん、この時点で現地調査を締めくくるとどうかについて、調査団の中に異論がなかったわけではない。しかし、文書調査の中心であった時国健太郎家の文書整理・撮影が一応その主要部分で完了する見通しが立ったこと、一私立大学の研究所として一つの地域の文書群全体に対して責任を負うことは不可能に近いこと、十数年の調査経験によって古文書調査において文書所蔵者あるいは現地の関係者（研究者・行政当局など）との関係のあり方や古文書の整理・史料化の方法などについての問題点が明らかになりつつあり、それらの問題点を検討したうえで再度態勢を組み直すべき時期がきていること、調査の十数年の間に調査団の構成メンバー個々の状況も大きく変化したこと、などの事情を考慮して、前記のような方針に激論の末たどりついたのである。

したがって、できるだけ完璧な古文書調査を行いたいという希望からすれば、今回の調査は極めて不満足なものになったといわざるをえない。時国健太郎家文書についていえば、近世文書についてはほぼ完全に整理を終わつたが、近代文書については、全体の詳細目録をとることはできず、一部は内容確認のための粗目録をとる段階で終了させざるをえなかったこと、襖下張り文書についてはほとんど手付

かずのままにせざるをえなかったこと、など反省を迫られる点が多く残ってしまった。

岩倉寺文書については、文書調査の方針をしっかりと確定しないままに調査に入ってしまったために、今次調査では完了させることができなかった（文責者としては、岩倉寺文書については最後まで整理を続けるつもりでいるが、この点について調査団全員の合意が得られているわけではない）。

その他、調査の過程で整理にとりかかった井池家所蔵文書、調査依頼を受けていた南家文書の調査など、今回の調査では手を付けられなかった文書群も少なくないことも心残りになっている。ただ、この両家の文書については、新たに調査団を編成し直して、調査にとりかかることを検討していることを付言しておきたい。

しかし、なによりも心残りなのは、両時国家の成立事情について調査団の見解の不十分な表現のために、両家に対して多大なご迷惑をおかけし、その迷惑を取り除くことができないままに調査を終了させざるをえなかったことである。八月の調査の最終日、時国健太郎氏と網野の間で、両時国家の成立事情について長時間にわたって討議が行われた。しかし、残念ながら見解の一致をみるには至らなかった。

た。

この問題は、単に過去のある時点の歴史的事実をめぐる問題だけにとどまらず、現在まで続く長い歴史的経過に関わる問題であり、一朝一夕に片付くような問題ではない。われわれ調査団に、そういう深刻かつ複雑な問題であるという認識が不十分であったこと、文書研究の不十分さから当初の見解を途中で修正していったこと、など反省と自戒を迫られることが少なくなかったことは率直に認めなければならぬ。その点、ご両家ならびに関係者に対して深くお詫び申し上げるほかはない。

現地調査は、以上のように多くの問題点を残しながらではあるが、一応終了した。この間、現地の実に多くの方々から筆舌に尽くし難いご援助・ご指導をいただいた。末筆ながら調査団一同より心からなる感謝の念を表しておきたい。

現地調査は終わったとはいえ、まだ目録・資料集・研究論集の刊行など、やらなければならないことは多々残っている。それらの課題を達成することが、お世話になった方々への最低限のお礼と覚悟しつつ、九七年度の調査報告を終わりたい。

(きつかわ・としただ 日本政治思想史)